



「戦争法案を廃案に」とコールする学生たち＝14日夜、国会正門前

戦争しない国であり続ける

シールズ SEALDs が国会前行動

戦争法案を必ず廃案に追い込もうと終戦記念日前夜の14日、国会正門前で学生らが呼びかける抗議行動がおこなわれました。開始直前まで激しい雨が降るなか7000人（主催者発表）が参加。ドラムのリズムにあわせて「戦争法案絶対廃案」とコールしました。主催はSEALDs（シールズ）自由と民主主義のための学生緊急行動）です。

「民主主義って何だ」のコールに「これだ」の掛け合いが響きました。沖縄県から参加した青年はスピーチで、沖縄の実態にふれ「人間の命を軽視する安倍政権を強く批判します」と語りました。

「子どものために平和な未来を残したい」というさいたま市の製岩純枝さん（45）は、娘と夫の家族3人で参加。「廃案にするまで行動を続けたいです」と語りました。

札幌市から来た島山雄紀さん（29）は「法案の中身を知れば知るほど戦争法案そのものだと思っ」と話し、「これから先も戦争をしない国であり続けたい」と語りました。

「来週大学受験を控えていて」と話す神奈川県川島の男子高校生（17）は「受験はもちろん大事。だけど、あのとき反対していればよかったと後悔したくない」といいます。「安倍首相は、日本がこれまで戦争をしないできた理由を考えるべきです」と語りました。